

国際基督教大学国際サマープログラム 日本語モジュール報告

武田 知子

1. はじめに

国際基督教大学（以下、ICU）グローバル言語教育研究センター（以下、RCGLE）は、1991年に設立された日本語教育研究センターの事業を引き継ぎ、2018年に発足した。その後、RCGLEは、研究紀要の刊行、教材・教授法の開発、言語教育に関する諸研究を行ない、夏期日本語教育（以下、SCJ）を実施してきた（桜木2023）が、教養学部との業務内容の融合に向け、2023年3月31日をもって閉所することとなった。それに伴い、RCGLEが運営していたSCJも終了することとなった。長きに渡るSCJの実績を引き継ぐべく、新たな夏期プログラムとして、2023年4月に設置されたグローバル教育センター（以下、CGE）が運営を行なう国際サマープログラム（ICU International Summer Program in Japan、以下、ISPJ）を開講することとなった。

2022年10月にCGE準備委員会が設置され、ISPJのプログラムの内容について検討を重ねた。2023年4月CGE発足からは、CGE内にISPJ担当部署が設置され、2023年7月のプログラムの実施に向け準備を行なった。このような短期間でプログラムを準備し、実施まで辿り着くことができたのは、準備から実施までのISPJ担当の教職員の献身的な働き、日本語教育プログラム（以下、JLP）の常勤・非常勤講師や学内の様々な関係者の理解と協力があったからこそである。心から感謝の意を表したい。

ISPJのプログラムは、日本語を学ぶ「日本語モジュール」（Japanese Language Module、以下、JLM）と日本研究を目的とする「日本学モジュール」（Japan Study Module、以下、JSM）の2つのモジュールで構成されている。以下、本稿では、2023年度ISPJの全体像及びJLM、JSMの特徴を概説した上で、JLMの運営について報告し、今後のJLMの実施に向けた課題を指摘する。

2. ISPJプログラム概要

ISPJはICUの学生と海外の大学で日本語・日本学を学ぶ学生が共に学ぶ夏期プログラムである。海外からは、学士号以上の学位を持つ社会人も参加可能である。基本的に、海外からの参加者はJLMとJSMを受講し、ICU生は海外からの参加者と共にJSMを受講することとなっている。ICU生で、JLMで開講される日本語レベルに相当する学生が希望をすれば、面接を経てJLMを受講することができるが、その場合は聴講生となる。各モジュールの詳細を表1に示した。

SCJの日本語授業は、ICUの通常学期科目として単位化され、レベル、指導内容共に通常学期と同じ内容の授業が行なわれていた。ISPJでは、JSMはICUの学部生は秋学期の日本研究メジャー「日本研究特論」として、3単位の科目となっているが、JLMはICUの単位には換算されない。他大学の受講生には、単位互換ができるよう学習時間と

内容からJSMは3単位、JLMは2単位相当と提示し、実際の単位数や単位として認定するかの判断は受講生の所属大学に委ねている。

表1 ISPJプログラムの構成

| | 日本語モジュール JLM: Japanese Language Module | 日本学モジュール JSM: Japan Study Module |
|-------|---|---|
| 運営責任者 | ISPJ日本語教育主任 | ISPJ主任 |
| 使用言語 | 主に日本語 | 主に英語 |
| 受講資格 | 他大学の参加者：CEFR A2程度の日本語力 ICU生：CEFR A2程度の日本語力（受講の可否は面談を行なって判断する） | 他大学の参加者・ICU生共通： TOEFL 79/IELTS 6.0程度 / 以上の英語力 |
| 内容 | ・タスクベースの日本語授業 ・「アニメ」「J-pop」「風呂敷の包み方」など日本語で特定の話題について学ぶ、ワークショップに参加するなどから選択 | ・テーマに沿ったオムニバス形式の講義とフィールドワーク（2023年度テーマは「水」） |
| 単位 | 他大学の参加者：2単位相当（実際の単位数は参加者の所属大学が認定） ICU生：単位は認められず聴講となる | 他大学の参加者：3単位相当（実際の単位数は参加者の所属大学が認定） ICU生：学部生は3単位（秋学期科目として認定）、ICU大学院生は単位は認められない |

全体のタイムスケジュールは表2の通りである。

表2 ISPJプログラム・タイムスケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-------------|-----|-------------|-----|-----|-----|
| 8:50-10:00 | JLM | JLM | JLM | JSM | JLM |
| 10:10-11:20 | | | | | |
| 11:30-12:40 | | | | | JSM |
| Lunch | | | | | |
| 13:50-15:00 | JSM | JLM 選択授業 | JSM | JSM | JSM |
| 15:10-16:20 | | | | | |
| 16:30-17:40 | | | | | |

JLM（網掛け部分）は月曜日、火曜日、水曜日、金曜日の午前にタスクベースの日本語授業、火曜日午後に選択授業を行なった。JSMは、月曜日、水曜日、金曜日の午後、木曜日の午前と午後に講義やフィールドワークをした。SCJではオプションとして、座禅や茶道、書道などの文化プログラムを行っていた（保坂2020）が、ISPJではそれに類するプログラムは、JSMの一環として授業に組み込まれた。

3. ISPJ参加者について

2023年度ISPJは、プログラム全体として、ICU生、海外からの参加者、合わせて50名が参加した。参加者募集は、CGEのISPJ担当職員が行なった。1月中旬よりICU

生へ学内ポータルによる広報を開始し、2月上旬には対面での説明会を実施した。他大学からの参加者の募集については、2月1日から3月1日まで応募フォームを公開し、提携校やJLP教員、SCJの元講師へ声かけをするとともに、Instagramで広報を行なった。JLMのプログラム内容に合わせ、JLMへの参加には日本語力がCEFRのA2以上であることを条件とした。広報にその旨を明記するとともに、申込書に日本語がA2以上であることを宣誓する項目を設けた。

ICU生は20名の定員に対し、19名が本登録をした。海外からの参加者は40名の定員に対し、応募者は54名で、スクリーニングの結果40名に合格通知を送った。40名の合格者から、9名の辞退者が出て、JLM受講生は31名となった。31名のうち1名は社会人であった。JSMを受講する2名のICU大学院生がJLMの受講を希望し、面接により1名のJLMの聴講が許可された。その結果、最終的に、ICUの大学院生1名を含む32名がJLMを受講した。JLM受講生の国や地域、所属大学は表3を参照されたい。

表3 JLM受講生 国・地域、大学

① 国・地域 (計31名)

| 国・地域名 | 人数 | 国・地域名 | 人数 | 国・地域名 | 人数 | 国・地域名 | 人数 |
|-------------|----|-----------|----|-----------------------|----|-------------------|----|
| USA | 10 | Czech | 1 | Malaysia | 1 | Japan,USA,Germany | 1 |
| China | 10 | Greek | 1 | Pakistan | 1 | Japan,USA | 1 |
| South Korea | 2 | Hong Kong | 1 | Canada,Ireland,Russia | 1 | USA,Taiwan | 1 |

② 所属大学 (社会人受講生を除く、計30名)

| 大学名 | 所在地 | 人数 |
|---|-------------|----|
| University at Buffalo, The State University of New York | USA | 5 |
| University of California San Diego | | 3 |
| Brown University | | 2 |
| Cornell University | | 1 |
| DePaul University | | 1 |
| Duke University | | 1 |
| Grand Valley State University | | 1 |
| Johns Hopkins University | | 1 |
| Mount Holyoke College | | 1 |
| Northeastern University | | 1 |
| University of California, Davis | | 1 |
| University of Maryland, College Park | | 1 |
| University of Massachusetts Amherst | | 1 |
| University of North Carolina at Chapel Hill | | 1 |
| University of Pennsylvania | | 1 |
| University College Dublin | Ireland | 2 |
| Birkbeck, University of London | UK | 1 |
| University of Sussex | | 1 |
| Soongsil University | South Korea | 2 |
| Lingnan University | Hong Kong | 1 |
| The Chinese University of Hong Kong | | 1 |

4. JLM実施報告

4-1 スケジュール

JLMに関連するスケジュールは表4の通りである。

表4 JLM関連スケジュール

| 日時 | 内容 |
|----------------------|-----------------------------------|
| 2022年12月 | 講師の募集 |
| 2023年3月 | 日本語授業アシスタント募集開始、日本語講師採用通知 |
| 2023年4月 | 日本語授業アシスタント面談・採用通知 |
| 2023年5月 | 日本語ボランティア募集開始 |
| 2023年5月31日(水) | 選択科目の内容・シラバス決定 |
| 2023年6月24日(土)～26日(月) | 受講生オンライン・プレイスメントテスト(作文とスピーチ動画)の提出 |
| 2023年7月3日(月) | JLM講師打ち合わせ、プレイスメントテスト判定会議 |
| 2023年7月5日(水) | ISPJ歓迎会 |
| 2023年7月7日(金) | JLM授業開始、日本語クラス内で面談、クラスの確定 |
| 2023年7月26日(水) | JLM授業最終日、プロジェクト発表(ポスターセッション形式) |
| 2023年7月27日(木) | ISPJ修了式 |
| 2023年7月28日(金) | JLM授業報告会 |
| 2023年8月11日(金) | 成績・報告書等提出締め切り |

4-2 JLM講師の募集と採用

2023年度のISPJのプログラムを検討する際、準備期間の短さから、JLPの非常勤講師にJLM講師を依頼することを想定した。そのため、JLPの授業のない木曜日にJLMの授業を入れないスケジュールを組んだ。募集に際しては、プログラム全期間の出講を必須とするのではなく曜日単位での担当を可とした。

12月初旬からJLP専任教員及び非常勤講師を対象に募集を開始した。2023年度の開設クラスは2クラスであったため、4名の講師でペアを組み、それぞれのクラスの担当を依頼することとした。応募のあった4名のうち、JLPでの経験とISPJ期間中の担当可能日数を見て、2名にコーディネーターをお願いした。コーディネーターには、シラバス、スケジュールの作成とクラスのコーディネーションを依頼した。選択授業は、2名の専任講師の協力を得られた。

初年度はJLMの定員が最大40名という小規模での開催であったため、必要な講師数が少なく、経験豊富なJLP教員、及び、非常勤講師でJLMを運営することができた。プログラムの実績がない中、安心して授業をお願いできたことは非常に幸いであった。今後も、いかに力のあるJLM講師を確保して、質の高い教育が提供できるかが課題となってくると考えられる。

4-3 JLM日本語授業アシスタントの雇用

SCJでは教務とプログラムの業務補佐として教務助手を採用していたが、ISPJではJSMでTAを採用、JLMで日本語授業アシスタントを採用した。日本語授業アシスタ

ントの募集は3月から行ない、日本語教員養成講座の受講生、ISPJに参加するICU生に呼びかけるとともに、広くICUポータルでも呼びかけを行なった。その結果、学部生10名の応募があった。4月に面接を行ない、3名（2名がISPJ参加者でうち1名は日本語教員養成講座受講生、1名はISPJに参加していない日本語教員養成講座受講生）を雇用した。

ISPJ参加者をアシスタントに採用したことは、JLM受講生との関係性が構築されやすい、プログラムの内容や目的についてよく理解しているという点で、業務を行なう上でメリットになることが多かった。日本語教員養成講座を履修していないアシスタントには、日本語授業でのサポートの仕方について事前に説明をする必要はあったが、プログラムが始まると、積極的に講師や受講生とコミュニケーションをとりアシスタント業務を遂行していた。こうしたことから、今後も、ISPJ参加者で日本語教育へ関心があり意欲が高ければ、日本語教員養成講座の履修者に限らず、アシスタントとして採用し、業務を依頼することは可能であると考えられる。

4-4 JLM日本語ボランティアの募集

JLMで日本語での交流を活発にするためにボランティアを募った。5月からポータルでの広報、JLP登録日本語ボランティアに呼びかけを行なった。その結果58名のICU生がボランティアに登録した。SCJ同様、Google Classroomに、日本語授業ボランティアのクラスを設定し、授業で必要に応じて参加者を募集した。日程によっては、参加者が少ないこともあり、その場合はJLP登録日本語ボランティアのGoogle Classroomに呼びかける、日本語授業アシスタントに参加を依頼する、などした。さらに、日本語授業アシスタントを通じて、ボランティア登録をしていないICU生に呼びかけてもらうこともあった。

日本語ボランティアが授業に参加することで、JLM受講生は日本語での十分なインプット、アウトプットの機会を得ることができた。ISPJ修了後のアンケートでも、その点についての満足度が高く、JLM全体への評価も高かった。問題点として、毎回来る日本語ボランティアが固定化する、直前になって不参加となったり、連絡なく欠席したりするという点が挙げられる。これはSCJでもJLPでもボランティア運営の難しさとして指摘されてきたことである。今後も、JLMで、日本語ボランティアと共に日本語を学ぶ機会を提供できることが望ましいが、そのためには、いかに日本語ボランティアを安定的に確保するかが課題となってくる。日本語ボランティアだけでなく、ISPJ参加のICU生にもさらなる協力を呼びかける、JSMの授業内容とコラボレーションをすることなども検討したい。

4-5 授業内容と使用教材、授業運営

JLMの授業カリキュラム、シラバスについては、JLP専任教員にアンケート、及び、対面で意見を聞くなどして、内容の検討を重ねた。他にはない、ICUでしかできない日本語教育であること、午前も午後プログラムが予定されているJLM受講生にとって負担が少なく、かつ、学びのある内容とすることを優先項目とした。検討の結果、午前

はJLPで執筆し中級レベルで使用しているテキスト⁽¹⁾を使って、タスクベースで日本語を学ぶクラス、「Think and talk in Japanese 1」、「Think and talk in Japanese 2」を開講することとした。Think and talk in Japanese 1はJLPのJ4レベルで、Think and talk in Japanese 2はJ5レベルで使用している教科書を使用した。さらに、午後は週に1回、受講生が各自の興味に応じて選択できる授業「Expand your world in Japanese」を設定した。2023年度の日本語クラスと教材・テーマ、担当講師は表5の通りである。

表5 日本語クラスと教材・テーマ、担当講師

| 日本語クラスと教材 | 講師名（敬称略） |
|--|--------------------------|
| Think and talk in Japanese 1 『タスクベースで学ぶ日本語 中級1』第3課、第4課 (スリーエーネットワーク) 文型・表現練習シート、漢字の言葉練習シート | 三浦 綾乃（コーディネーター） 久保 一美 |
| Think and talk in Japanese 2 『タスクベースで学ぶ日本語 中級2』第2課、第4課 (スリーエーネットワーク) 文型・表現練習シート、漢字の言葉練習シート | 宇賀持綾子（コーディネーター） 開 めぐみ |
| Expand your world in Japanese 7月11日「日本のエコバック」、7月18日「折り紙でバラを折ろう」、 7月25日「日本のボードゲームで遊ぼう」 | 宇賀持綾子 |
| Expand your world in Japanese 7月11日「アニメで学ぶ日本語」 | 小澤伊久美 |
| Expand your world in Japanese 7月18日「J-popを楽しもう」、7月25日「若者言葉を話してみよう」 | 澁川 晶 |

JLMは約3週間39コマという短い日程であることから、午前の授業Think and talk in Japaneseでは、どちらのレベルも使用テキストから2つの課を取り上げて学び、最終課題としてプロジェクトを行なうスケジュールを組むようにした。また、JLP同様、週に1度個別指導の時間を設定し、受講生の学習をサポートすることとした。成績評価は、理解の確認を目的とした小テストとプロジェクトレポート、プロジェクト発表で行なった。

Think and talk in Japanese 1のプロジェクトは「日本国内の旅行計画」、Think and talk in Japanese 2のプロジェクトは「行ったことのある施設の紹介」であった。プロジェクト発表は2クラス合同とし、ポスターセッション形式で実施した。また、ポスターデザインコンテストも行ない、JLM受講生、日本語ボランティアから最も多くの票を得たポスターを表彰した。

午後の選択授業は、受講生が各自の興味に沿って、日本語で日本語や日本文化を学ぶことができる授業、ワークショップ形式で学べる授業を選択できるようにした。こちらの評価は、授業での成果物やコメントシートで行なった。

授業運営に際し、授業管理システムとして、JLMではGoogle Classroomを、JSMではMoodleを使用した。これは、それぞれの担当教員が使い慣れたツールを活用した方がいいとの判断であった。プログラム開始前は、受講生が2つの授業管理システムを使用するために混乱するのではないかと懸念していたが、幸い、授業管理システムの違い

により問題が生じることはなかった。

JLMの実施にあたって、JLPに在籍する非常勤講師にJLM講師を依頼できたことは、想定以上に利点があった。JLPの協力により、J4、J5の既存のリソースの使用許可を得たが、非常勤講師はプログラム開始前からリソースに容易にアクセスすることができた。その上、ISPJ開始前から、JLMでコーディネーターを担当する講師が、J4、J5でコーディネーターを担当するJLP教員とコンタクトをとり、シラバス、スケジュールの相談をすることができた。何よりも、JLPにおける実践知を共有していることは、日本語教育主任、JLM講師間のコミュニケーションを容易にし、JLMの教育目標に向けて連携をとりつつ運営をすることができた。

4-6 JLMプレイスメントテスト

3月に可否の決定を行なう段階で、応募書類により日本語が中級レベルに達しているか日本語力の判定を行なったが、プログラム前の6月には、現状の日本語力を測り、どちらのクラスで学ぶことが適しているのかを判定するためにプレイスメントテスト（以下、PT）を実施した。PTは、2022年度SCJと同様、作文とスピーチ動画をGoogle Classroomに提出する形（西野2023）で行なった。6月上旬に、PTの日程や進め方を受講生にメールで通知し、6月24日から6月26日までの3日間の間に提出することとした。さらに、受講生の意向をPTに反映できるよう、テキストを見て希望クラスの記入を求めた。

6月27日から7月2日の間に、コースコーディネーターとISPJ日本語教育主任の3名で作文とスピーチ動画、学習歴などの資料を見ておき、7月3日に集まって判定会議を行なった。さらに、初回の授業で担当者によるインタビューを実施し、最終的なレベルを判定した。その結果、Think and talk in Japanese 1は24名、Think and talk in Japanese 2は8名がプレイスされた。中級以上を受け入れる、ということでスクリーニングを行なっていたが、実際は初級と見受けられる学生もいた。そのため、Think and talk in Japanese 1の人数が24名と多くなり、受講生の日本語力にかなりのレベル差が生じてしまった。可能であれば、語彙や文法の補足をしながら進めるセクションと、タスク中心のセクションに分けて開講すべきところであるが、2クラスという設定上、講師数が限られており、対応することができなかった。Think and talk in Japanese 1の個別指導に、日本語教育主任が入る等の対応はしたが、事後のアンケートでも、この点について、JLM講師、受講生共に問題であったとする指摘が多くあった。今後は、スクリーニングの方法を再考し、こうしたことを予測して教員の確保及び配置を適切に行なうことが課題である。

その他、クラスが適切ではなかった学生が2名いたという反省点がある。いずれも、教員の日本語力の判定と本人の希望にずれがあったが、本人の意向を尊重してプレイスしたというケースであった。実質3週間という短いプログラムであるため、迅速にPTを行なってクラスを進める、本人の学習意欲を損なわないようにするとの判断ではあったが、今後は、プログラム開始後でも日本語力の不適合があれば、様子を見て柔軟に対応することを検討したい。

5. おわりに

以上、2023年度ISPJのプログラム概要、JLMの運営について報告した。2022年にSCJが終了し、新たなサマープログラムの検討が始まったものの、十分な準備時間もなく、2023年度からISPJが開催できるか、不安も大きかった。しかし、CGE準備委員会で、「誰もが幸せになれる持続可能なサマープログラム」について、アイデアを出し合い、議論を重ねるうちに、不安は新たなプログラムへの期待に変わり、その実現可能性が見えるようになった。話し合いから準備、プログラムの実施まで、膨大なエネルギーを要する作業を、元RCGLEセンター長、CGE職員は黙々と、かつ、着実に進めてくださった。4月からは、ISPJ主任が着任し、ご尽力くださった。チームISPJに参加し、ICUにおける新たなサマープログラムの立案、運営に関われたことは貴重な経験であった。さらに、JLMの準備・運営は、JLP教員、非常勤講師の協力がなければ不可能であった。特に、お忙しい中サポートしてくださったJLP主任、副主任、そして、共にJLMを作ってくくださった講師の方々には、改めて心より感謝申し上げたい。

注

- (1) 国際基督教大学教養学部日本語教育課程（2022）『タスクベースで学ぶ日本語中級1』、『同 中級2』スリーエーネットワーク

参考文献

- (1) 桜木ともみ（2023）「総括」『ICU日本語教育研究』19、111-115
- (2) 西野藍（2023）「教務報告」『ICU日本語教育研究』19、117-123
- (3) 保坂明香（2020）「文化プログラム報告」『ICU日本語教育研究』16、85-88

（武田知子—国際基督教大学）